

スムータ《動乱》時代のロシア・ユーラシア 日ロ経済協力の視点から

今般のロシア・ウクライナ戦争は、国際経済関係における地政学リスクの問題を再認識させる一方で、新興市場大国の一角として国際ビジネスの表舞台に躍り出たロシアとの経済協力のあり方に反省と見直しを迫っている。本講演では、ソ連崩壊後のユーラシアにおける国際関係の展開を俯瞰した上で、官民一体で進められた日ロ経済協力の軌跡を振り返り、そこから学ぶべき新興国ビジネスのリスクと教訓を検討する。

日時 2022年 7月 6日(水)
13:00~14:30

会場 関西大学 梅田キャンパス
8階ホール 大阪府大阪市北区鶴野町1番5号



ハイブリッド開催 Zoom有

聴講無料

オンライン同時配信

事前申込制

対面参加：先着50名

講師

徳永 昌弘

関西大学 商学部 教授

プロフィール



1970年生まれ
京都大学経済学部卒業、
京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了(経済学博士)。

東北大学東北アジア研究センター講師・研究機関研究員、日本学術振興会特別研究員(京都大学経済研究所)、関西大学商学部助教授・准教授を経て、2015年4月より現職。ヘルシンキ経済大学移行経済研究所客員研究員(2008年9月~09年3月)、ロシア経済高等大学社会学部客員研究員(2009年3月~9月)、京都大学経済研究所客員准教授(2009年10月~10年3月)、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員教授(2018年4月~19年3月)、2013年4月より同センター共同研究員。

主著に『20世紀ロシアの開発と環境』(北海道大学出版会、2013年、政治経済学・経済史学会賞及び環境経済・政策学会奨励賞受賞)。近年の業績に、“A conflict of state-led initiative and economic rationality: focusing on the state language and lingua franca in Uzbekistan,” (co-authored) KIER Discussion Paper Series, No. 1068, 2021; 「国際貿易及び海外直接投資に対する社会的紐帯の誘引効果：中東欧・旧ソ連諸国の実証研究に関するメタ分析」『経済研究』第72巻第1号、2021年; “Japan’s foreign direct investment in Russia: a big return from a small opportunity,” (co-authored) Eurasian Geography and Economics, 61(3), 2020など。

申込方法

事前申込制

対面参加：先着50名

右記QRコードより申込フォームにアクセスの上、お申込み下さい。

<https://forms.gle/cV87FrtXV2XQUdyH9>

申込締切 6月29日(水) 17:00

申し込みフォームを利用されない方は、氏名・ふりがな・所属・連絡先(電話番号・メールアドレス)・参加人数・参加方法(来場orオンライン)、件名に「7/6公開講座申込」を明記の上、下記のお申込み先(関西大学 研究所事務グループ)までハガキ、FAX、E-mail (keiseiken★ml.kandai.jp)でお申込みください。※アドレスの記号「★」を「@」に置き換えて下さい。



関西大学

関西大学研究所事務グループ

〒564-8680 吹田市山手町3丁目3番35号 E-mail: keiseiken★ml.kandai.jp

TEL(06)6368-0653/FAX(06)6339-7721 ※アドレスの記号「★」を「@」に置き換えて下さい。

参加者の皆様におかれましては、感染防止策を講じて頂きますようご協力お願い申し上げます。

最新情報発信中!

ぜひフォローをお願いします。



@touzaiken.keiseiken.hogakuken
[東西研・経政研・法研] 関西大学3研究所合同



@KU_kenkyusho 関西大学文系3研究所

